

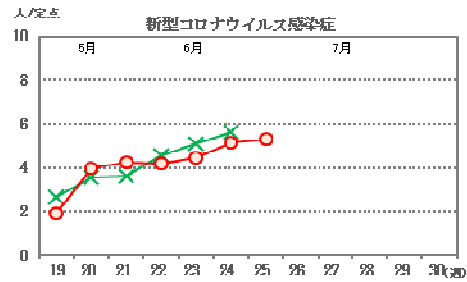
長崎県感染症発生動向調査速報（週報）

2023年第25週 2023年6月19日（月）～ 2023年6月25日（日） 2023年6月29日作成

☆定点報告疾患（定点当たり報告数の上位3疾患）の発生状況

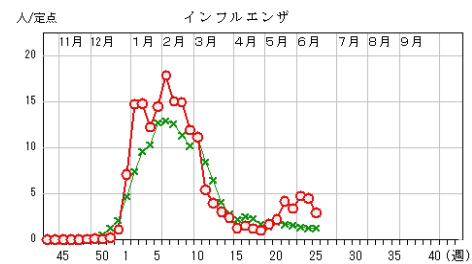
（1）新型コロナウイルス感染症

第25週の報告数は370人で、前週より10人多く、定点当たりの報告数は5.29であった。
 年齢別では、10～14歳（71人）、40～49歳（48人）、50～59歳（36人）の順に多かった。
 定点当たり報告数の多い保健所は、上五島保健所（18.33）、長崎市保健所（7.59）、県北保健所（5.50）であった。



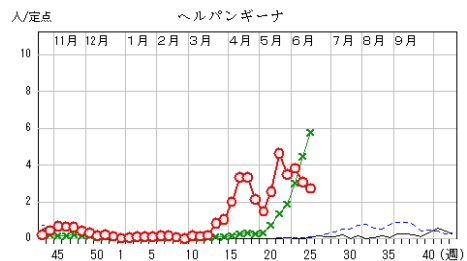
（2）インフルエンザ

第25週の報告数は206人で、前週より107人少なく、定点当たりの報告数は2.94であった。
 年齢別では、10～14歳（36人）、7歳（27人）、4歳（25人）の順に多かった。
 定点当たり報告数の多い保健所は、長崎市保健所（6.12）、西彼保健所（5.00）であった。



（3）ヘルパンギーナ

第25週の報告数は120人で、前週より15人少なく、定点当たりの報告数は2.73であった。
 年齢別では、1歳（31人）、2歳（23人）、4歳（18人）の順に多かった。
 定点当たり報告数の多い保健所は、対馬保健所（6.00）、県北保健所（5.67）、佐世保市保健所（4.00）であった。



○ 当年(長崎県) — 前年(長崎県)
 × 当年(全国) - - - 前年(全国)

☆上位3疾患の概要

【新型コロナウイルス感染症】

第25週の報告数は370人で、前週より10人多く、定点当たり報告数は5.29でした。地区別では、上五島地区（18.33）、長崎地区（7.59）、県北地区（5.50）が他の地区より多くなっています。

本疾患の主な症状は、発熱、咳、全身倦怠感等の感冒様症状で、主に飛沫感染や接触感染により感染します。令和5年5月8日より、「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」における類型が「新型インフルエンザ等感染症」から「五類感染症（定点把握）」に変更されました。

今後も場面に応じたマスクの着用や手洗い、換気、三密の回避などの基本的な感染対策に努めましょう。

【インフルエンザ】

第25週の報告数は206人で、前週より107人少なく、定点当たりの報告数は2.94でした。地区別にみると、長崎地区（6.12）、西彼地区（5.00）は他の地区より多くなっています。今後も予防に努めましょう。

インフルエンザは、インフルエンザウイルスを原因とする気道感染症です。感染経路は、咳やくしゃみによる飛沫感染と、飛沫等に含まれるウイルスが付着した手指で自分の眼や口、鼻を触ることによる接触感染があります。1日から3日間の潜伏期間のあとに38度以上の発熱、頭痛、全身倦怠感、筋肉痛、関節痛などの全身症状が突然現れます。これに続いて咳、鼻汁などの上気道炎症が起こり、約1週間で軽快するのが典型的な症状です。呼吸器、循環器等に慢性疾患を持つ方は、その病状が悪化することもあります。小さなお子さんの場合、熱性痙攣や気管支喘息を誘発することもあります。

今後も手洗い・手指消毒、適切なマスクの使用、換気などの基本的な感染対策を励行し、予防に努めましょう。

【ヘルパンギーナ】

第25週の報告数は120人で、前週より15人少なく、定点当たりの報告数は2.73でした。地区別にみると、対馬地区（6.00）、県北地区（5.67）、佐世保地区（4.00）は他の地区より多くなっています。4保健所では、1ヶ月以上警報レベルの報告数が続いており、今後も動向に注意が必要です。

本疾患は、発熱と口腔粘膜に現れる水疱性発疹を特徴とし、夏期に流行する小児の急性ウイルス咽頭炎です。4歳以下の乳幼児が中心で、例年6月から7月に患者数のピークが認められます。

主な原因はエンテロウイルスです。県内で4-6月に採取された検体から、エンテロウイルス属のコクサッキーウイルスA2、A4、A10、B5が検出されています。

エンテロウイルスの感染経路は、飛沫感染と患者の便に汚染されたオムツや下着、器物からの接触感染（糞口感染）です。便からは1週間から4週間にわたりウイルスが検出されるため、回復後も感染源となり得ます。保護者は乳幼児に手洗いを励行させて、感染防止に努め、体調管理に気をつけてあげましょう。

☆トピックス：インフルエンザに注意しましょう

2023年第25週の定点当たりの報告数は、「2.94」で前週より減少しました。全国で3番目に多くなっています。長崎県は2022年第52週に流行入りし、2023年第2週に注意報レベル基準値の「10.0」を超えた後、患者数は増加し、第6週にピークを迎えました。その後患者数は減少しましたが、第19週に再び増加に転じました。前週から2週続けて減少しましたが、流行の目安である「1.0」を超えた状態が継続しています。

今後も手洗い・手指消毒、適切なマスクの使用、換気などの基本的な感染対策を励行し、予防に努めましょう。

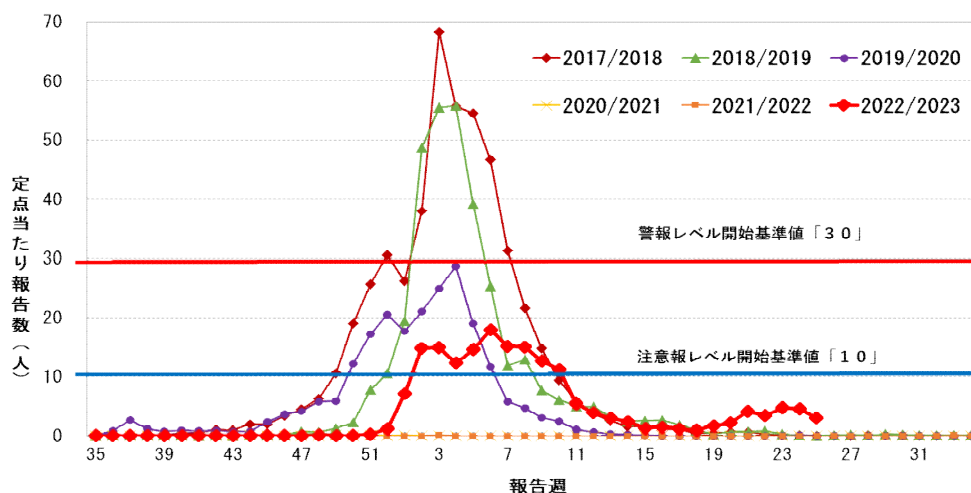
(参考)厚生労働省 インフルエンザ総合ページ(外部のページに移動します。)

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekkaku-kansenshou/infulenza/index.html

(参考)感染症対策室：長崎県 インフルエンザ流行の注意報の発表

<https://www.pref.nagasaki.jp/shared/uploads/2023/01/1674096992.pdf>

長崎県におけるインフルエンザ報告数の推移



☆トピックス：腸管出血性大腸菌感染症に注意しましょう

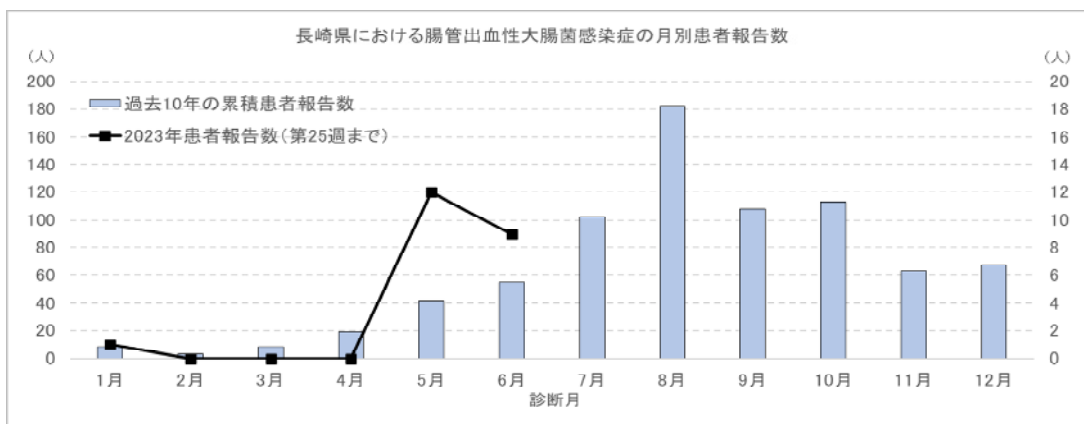
腸管出血性大腸菌感染症は、O157やO26をはじめとした「腸管出血性大腸菌」による感染症です。

主な感染経路は、菌に汚染された食品や患者の便で汚染されたものに触れた手を介した経口感染です。2日から9日の潜伏期間の後、腹痛・水様性下痢・血便などの症状を呈します。無症状の場合もありますが、発症者の約6%から7%が、溶血性尿毒症症候群（HUS）や脳症などの合併症を起こし、時には死亡することもあります。特に、抵抗力が弱い小児や高齢者等は注意が必要です。

県内では、2023年第25週までに腸管出血性大腸菌感染症が22例報告されています。

例年5月ごろから報告数が増加する傾向にあります。次の点に気をつけて感染予防に努めましょう。また、症状があるときは速やかに医療機関を受診しましょう。

- 帰宅時やトイレ・オムツ交換の後、調理・食事の前には石鹸と流水で十分に手を洗いましょう
- 肉類を調理する際は十分に加熱しましょう
- 生肉を調理する際、器具は専用のものにするか、使用后すぐに十分な洗浄・消毒をしてから他の調理に使用しましょう
- 下痢症状のあるときは入浴は控え、シャワー浴または最後に入浴しましょう



☆トピックス：マダニやツツガムシの活動が活発な時期です。ご注意ください！

マダニ類やツツガムシ類は、野外の藪や草むらに生息しているダニで、家庭内に生息するダニとは全く種類が異なります。野生動物が出没する環境に多く生息しているほか、民家の裏山、裏庭、畑やあぜ道などにも生息しています。

マダニ類は、日本紅斑熱や重症熱性9例のSFTS、3例のつつが虫病、5例の日本紅斑熱の患者が発生しています。

春から秋（3月から11月）にかけては、マダニ等の活動が活発になる時期です。野外で活動する際は、長袖、長ズボン、長靴を着用するなどして肌の露出を極力避けて感染防止に心がけましょう。もし、マダニ等に咬まれていたことに気づいた場合、無理に取り除こうとせず、皮膚科等の医療機関で適切に処置してもらいましょう。また、咬まれた後に発熱等の症状があった場合は、速やかに医療機関を受診しましょう。受診した医療機関では、咬まれた状況などをできるだけ詳細に説明しましょう。

（参考）長崎県感染症対策室 ダニ媒介性感染症「ダニ媒介性感染症の予防」
<https://www.pref.nagasaki.jp/bunrui/hukushi-hoken/kansensho/kansenshou/tick/>

長崎県におけるダニ媒介感染症の発生件数

年	2018	2019	2020	2021	2022	2023 (～第25週)
SFTS	4 (2)	8 (6)	6 (4)	6 (1)	13 (4)	9
日本紅斑熱	19 (6)	15 (4)	18 (1)	28 (9)	22 (3)	5
つつが虫病	8 (7)	1 (0)	11 (2)	14 (8)	7 (1)	3

※()は第25週までの発生件数

☆新型コロナウイルス感染症の発生状況（2023年第25週：6月19日から6月25日）

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）は、2023年5月8日より、「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」における類型が定点把握対象の5類感染症に変更されました。

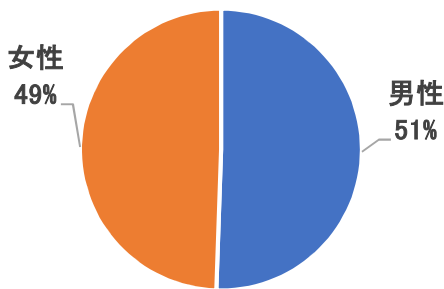
5月8日以降は、県内の人口等を勘案して選定された70医療機関（インフルエンザ/COVID-19定点）から、1週間（月～日曜）にCOVID-19と診断された患者数が週に1回報告されます。報告のあった県全体の患者数を集計し、本週報で毎週（原則木曜日）公表しています。

2023年第25週の新型コロナウイルス感染症の定点当たり報告数は、前週の「5.14」より増加し、「5.29」でした。保健所別では、上五島保健所が最も多くなっています。また、年齢別では、10代が多くなっています。

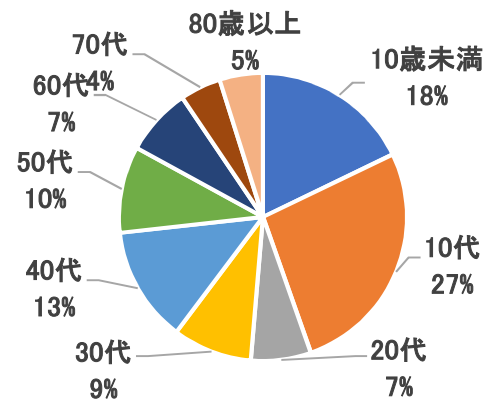
今後も場面に応じたマスクの着用や手洗い、換気、三密の回避などの基本的な感染対策に努めましょう。

	長崎県	長崎市	佐世保市	西彼	県央	県南	県北	五島	上五島	壱岐	対馬
報告数	370	129	44	13	48	28	22	3	55	16	12
定点数	70	17	11	6	11	8	4	4	3	3	3
定点当たり報告数	5.29	7.59	4.00	2.17	4.36	3.50	5.50	0.75	18.33	5.33	4.00

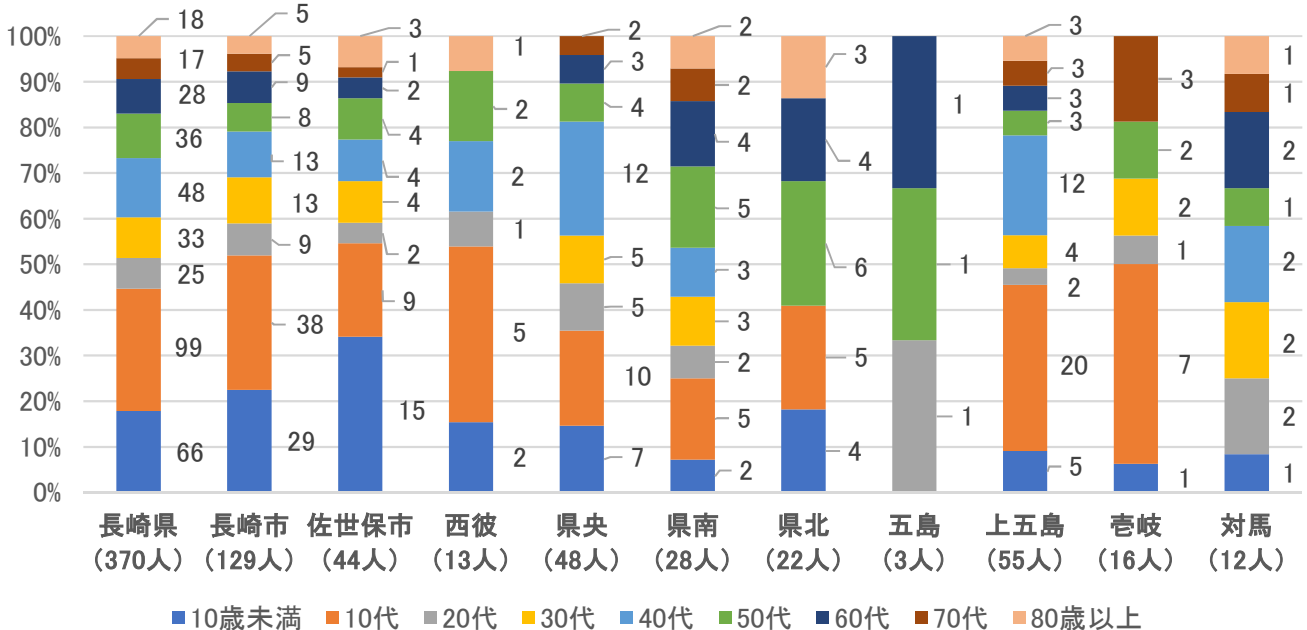
性別割合



年代別割合



保健所別年代別報告数



◆全数届出の感染症

- 2類感染症： 結核 患者 女性（80代以上・2名）
- 3類感染症： 腸管出血性大腸菌感染症 無症状病原体保有者 男性（30代・1名）
- 4類感染症： 重症熱性血小板減少症候群 患者 男性（70代・1名）
- 5類感染症（全数把握対象）： 劇症型溶血性レンサ球菌感染症 患者 男性（80代以上・1名）

◆定点把握の対象となる5類感染症

(1) 疾病別・週別発生状況 (第20～25週、5/15～6/25)

疾患名	定点当たり患者数					
	20週	21週	22週	23週	24週	25週
	5/15～	5/22～	5/29～	6/5～	6/12～	6/19～
インフルエンザ	2.21	4.14	3.39	4.73	4.47	2.94
新型コロナウイルス感染症	3.96	4.26	4.19	4.46	5.14	5.29
RSウイルス感染症	0.93	1.07	1.00	2.02	1.80	1.75
咽頭結膜熱	0.20	0.39	0.36	0.61	0.48	0.25
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	2.34	2.30	1.77	1.43	1.23	1.05
感染性胃腸炎	3.20	3.09	3.70	2.86	2.11	2.59
水痘	0.07		0.11	0.16	0.05	0.07
手足口病	0.30	0.55	0.43	0.75	0.68	0.64
伝染性紅斑（リンゴ病）						
突発性発しん	0.20	0.41	0.50	0.48	0.32	0.20
ヘルパンギーナ	2.55	4.64	3.48	3.82	3.07	2.73
流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）		0.18	0.02	0.02	0.05	0.02
急性出血性結膜炎				0.13	0.25	
流行性角結膜炎	0.63	0.38	0.38	0.75		0.38
細菌性髄膜炎		0.08	0.08			
無菌性髄膜炎			0.08			
マイコプラズマ肺炎			0.08	0.08		
クラミジア肺炎（オウム病は除く）						
感染性胃腸炎（ロタウイルス）						

(2) 疾病別・保健所管内別発生状況 (第25週、6/19～6/25) ※赤字：警報レベル、青字：注意報レベル

疾患名	定点当たり患者数（県・保健所管轄別）										
	県	佐世保市	長崎市	壱岐	西彼	県央	県南	県北	五島	上五島	対馬
インフルエンザ	2.94	2.73	6.12		5.00	2.55	0.50	1.75	0.50	0.33	
新型コロナウイルス感染症	5.29	4.00	7.59	5.33	2.17	4.36	3.50	5.50	0.75	18.33	4.00
RSウイルス感染症	1.75	4.83	2.20		1.50	1.71	0.60	0.67	1.00		
咽頭結膜熱	0.25		0.30		0.50	0.43			0.67		0.50
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1.05				0.50	1.86	4.80	2.33			
感染性胃腸炎	2.59	6.67	2.70		2.25	3.71	1.60	1.00	0.33		
水痘	0.07		0.10		0.25	0.14					
手足口病	0.64	0.67	0.20		0.75	1.86		0.33		0.50	2.00
伝染性紅斑（リンゴ病）											
突発性発しん	0.20	0.17	0.20	0.50		0.29	0.20	0.67			
ヘルパンギーナ	2.73	4.00	1.80		3.75	3.86	1.20	5.67	0.33		6.00
流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）	0.02			0.50							
急性出血性結膜炎											
流行性角結膜炎	0.38		0.33				2.00				
細菌性髄膜炎											
無菌性髄膜炎											
マイコプラズマ肺炎											
クラミジア肺炎（オウム病は除く）											
感染性胃腸炎（ロタウイルス）											